

16 世紀後半のイングランド Colchester における 外国人居住者と新規技術移民

上 出 健 二*

Old and New Strangers at Colchester in England in 1571

Kenji KAMIDE

(Received September 1, 1997)

An attempt was made to clarify the characteristics of "Dutch" weavers, who were introduced, since 1565, by Elizabeth's Grant to England, in order to recover the seriously damaged English wool industry by establishment of new superior textile products having competitive power against oversea products and to compare with those of Old Strangers. For this purpose, the lists of strangers obtained originally in Record of Baptism at "Dutch Church" of Colchester in England in 1571 were analyzed systematically. In the documents 55 Old Strangers and 130 New Strangers were recorded. Among Old Strangers there was a group referred to as "Note" group, whose duration of stay in England was less than 5 years. This group overlapped completely with New Strangers in its duration of stay. These were Flemish (not Dutch !) dominant and non denizens (i.e., aliens). Approximately half of Old Strangers, except "Note" group, was denizens. Degree of denization seems independent of duration of stay, if it is longer than 4 years, and of occupations. Five families in which both husband and wife were strangers (but, of the same nationality) were found in Old Strangers. Other Old Stranger (majority) came to England without family (unmarried) and were supposed to have intermarried with English ladies. Forty eight % of Old Strangers was Flemish. Old Strangers had 11 occupations such as cordwainer, tailor, dyer, carpenter, carrier, brewer, mariner, physician and painter. Occupations of Old Strangers, except "Note" group, (i.e., Old Strangers with relatively long duration of stay) were roughly uniformly distributed. Technology transfer by Old Strangers was judged to be effective in the field of dyer, tailor, glazier and mariner. All of these occupations were rapidly developing at that times. In "Note" group shoe maker (cordwainer) are predominant (72%) and the second place was tailor (12%). New Strangers were not the group first arrived at Colchester in 1565, but successor. All New Strangers were accompanied with their families. Average family had 0.75 child. Bayes maker occupied 36.8% and hopplanters 19.5% in New Strangers. Textile craftsmen including bayes maker, card maker, wool comber and weaver are 44.7% in New Strangers. This indicates strongly that New Strangers are a new textile technology-oriented group from Flanders. We can explain why there was no sayes maker in New Strangers, if we consider that English government wanted to admit the refugees who could produce new textile products suitable for export and that after settlement of bayes were exported and sayes were consumed for domestic use.

Key words : Old Strangers, New Stranger, Colchester, Technology transfer, Flanders, Bayes maker

* 熊本大学教育学部被服学研究室：〒 860 熊本市黒髪 2-40-1

1. はじめに

イギリスの繊維産業、特に毛織物産業は、羊毛産業（飼羊産業）をも包括すると、産業革命後数十年に至るまでは、国の唯一の基幹産業であった。1000年以上の長い年月繊維原料（羊毛）と製品（紡毛織物）は貿易品目の中で圧倒的に第1位を占めた。しかし、イギリスの繊維産業はイギリス独自の技術に基づいて発達してきたのではない。産業革命以前の約1500年以上にわたって何度か先進ヨーロッパ大陸の技術がイギリスへ導入される度に産業の技術が非連続的にレベルアップした。技術移転の主なものは次の通りである。

- (1) ローマ時代イタリアから縮絨と製織技術（毛）^{1,2)}
- (2) 11世紀（ウィリアム1世）フランドルから製織技術（毛）^{3,4)}
- (3) 14世紀（エドワード3世）フランドルから製織と染色技術（毛）^{5,6)}
- (4) 16世紀（エリザベス女王）フランドルから梳毛製造技術（毛）^{7,8)}
- (5) 16世紀末～17世紀初頭フランスから絹製織技術（絹）⁹⁻¹¹⁾

Colchester（コルチェスター）はローマ時代の *coloniae* の1つである^{12,13)}。コルチェスターはエセックスの中核都市であり、13世紀後半コルチェスター産織物の記録があり^{14,15)}、中世には紡毛広幅織物を生産した。未仕上げ紡毛広幅織物は14-16世紀におけるイギリスの主要輸出品（ロンドン港経由、マーチャント・アドヴェンチャーラズ取り扱い）であった。これは西部地方を中心として生産されたが、エセックスとサフォークの境界も、全体として紡毛織物特産地であった。一方、ノーフォークのウーステッド（Worsted）とアイルシャム（Aylsham）（コルチェスターの北方約80km）においては、すでに13世紀頃梳毛織物（いわゆる古典的梳毛織物）が生産された¹⁶⁾。その後、ノーリッチ（ノーフォークの中心都市）でかなり大規模に工業生産された。1520年代の中頃131名を下らない親方梳毛織物工（*master worsted-weavers*）がノーリッチにいた¹⁷⁻¹⁹⁾。

16世紀中頃（1528年、1551年、1565年など）紡毛織物（特に、上述の広幅未仕上げ織物）の、特に、低地諸国への輸出不振^{20,21)}が起こり（従来の北、中欧市場の喪失が原因）、多くの広幅織物産地は深刻な打撃を受けた。さらに、ノーフォーク製古典的梳毛織物は、より高品質のフランドル農村工業製品（*Bayes* や *Sayes*）に対する輸出競争に敗北した²²⁾。その結果、ノーフォークの中心都市ノーリッチなどの衰退が起こった。1540年にはイングランドの全輸出額の約84%（金額）をも紡毛織物が占めていた²³⁾ 当時のイギリスの状況を考えると、これ等の事態は極めて憂慮すべきことであった。

不況対策として

(a) 紡毛産地では、紡毛製品の高級品質化、薄物化、仕上げ完成品の製造を行って、輸出先を変更する。長期的には薄物に適した梳毛織物への変換。

(b) 従来の梳毛産地では、フランドルの先進梳毛技術を導入（前述の(4)）して新規高級品（*New Draperies*）の製造技術を獲得する。

などが立案され、実施された。(a)は新市場（南欧、中近東、アメリカ大陸）²⁴⁾の開拓をめざし、(b)は同一市場での競争力の獲得が短期的目標であった。ノーリッチは1564年にエリザベス女王にフランドルの繊維技術者の導入を請願し、1565年に勅許を得た。これによって、ノーリッチだけでなく、イングランド各地にフランドル技術者が定着し、家族以外に *servant* も2名まで（各家族）同伴を許され、その代わり *Bayes* や *Sayes* などの新規製品を作ることが義務づけられた。コルチェスターは移住技術者の力を借りて、いち早く紡毛産地→梳毛産地への転換はかった

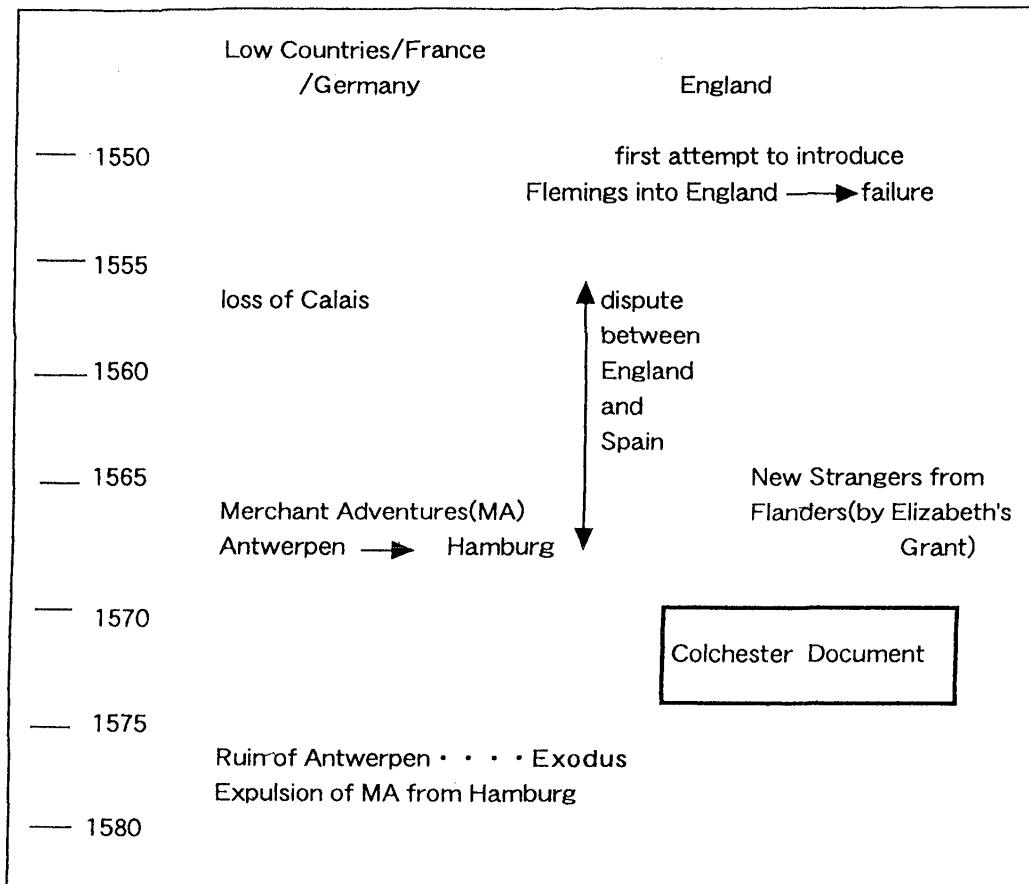


Figure. 1 International Relations between England and Europe Continent Including Low Countries, France, Spain and Germany, 1550-1580

代表例である^{25,26)}。

Fig. 1 に 1550-1580 年ごろのイギリスと大陸諸国との国際関係をしめす。また、Fig. 2 にイギリスとフランドルの繊維工業間の相互関係を示す。図中の (2) ~ (4) は本文で示した技術移転に対応する。

1565 年以前よりかなり多数の Strangers (外国人) (主としてフランドル人) がイギリスに居住していた。外国生まれでイギリスに永住する者は Strangers と呼ばれた。Strangers は Denizens (公民権を与えられた居留民) の資格を持つ者と持たない者とに分類される。後者は Aliens (または、non-Denizens) ともいわれる (Fig. 3)。Denizens の資格をとることを Denization といい、royal grant である。Denizen になると、土地の購入、売却、遺贈 (ただし、相続ではない) などの諸権利が認められ、1515 年より外国人にたいする 2 倍の課税率の免除は取り消された。Aliens は土地の所有を禁止され、自国民の 2 倍の課税率の税金の支払い義務を持つ。1483 年の法令により他の外国人を雇用したり、徒弟とすることが禁止された。1523 年には、2 人の外国人 journeymen (職人) の雇用が認められたが、Denizen が Alien の徒弟を採用するのが禁止された (Act of 1523)。Aliens の職業にも制約が加えられ、Pewteress (しろめ製器物の製造職人)、Printers (印刷屋)、Bookbinders (製本屋) は禁止された (Statute of 1534)²⁷⁾。

1571 年におけるコルチェスターに居住する Strangers のリストが Colchester の Dutch Church

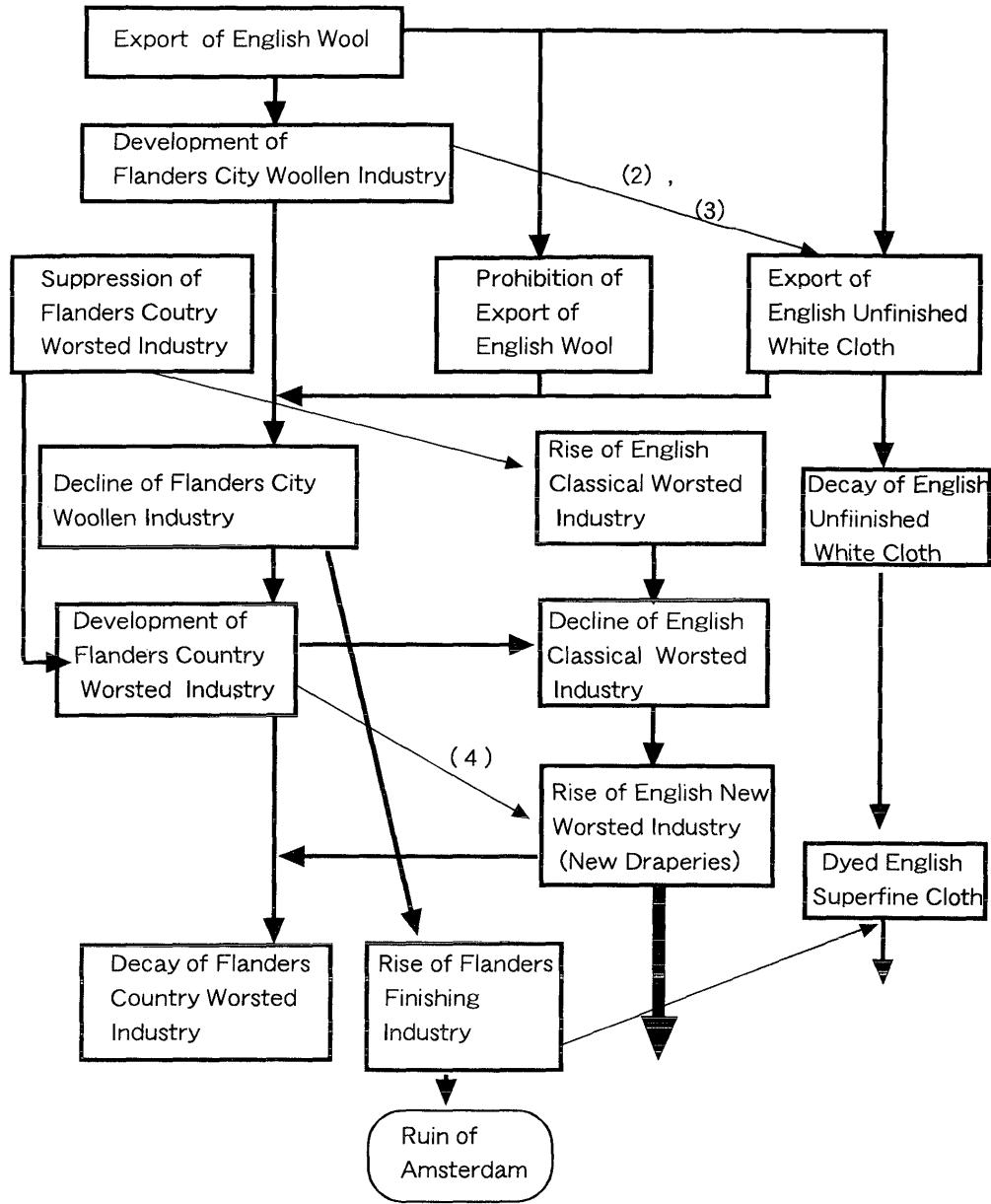


Figure. 2 Rise and Decline of Flanders and English Woollen and Worsted Industries (12~18Centuries)(→:Technology Transfer)

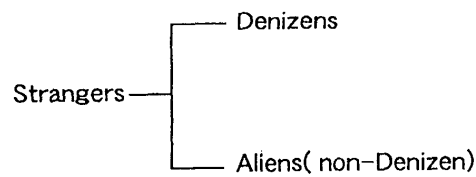


Figure. 3 Classifications of Strangers

における Register of Baptism (洗礼記録)に残されている²⁸⁾。この記録では Strangers を Old Strangers と New Strangers に区別している。前者は今までの法令に規制される外国人居留者、後者はエリザベス女王の勅許 (特例) により居住を許されたものである (後述)。この記録の歴史上の位置づけを Fig. 1 に Colchester Document として表示してある。また, Fig. 2 に 1565 年以後のエリザベス女王勅許によって来住した技術移民の果たした役割を示した (図中の (4))。

本論文では上記の Colchester Document を整理・解析することによって, 16 世紀後半のイギリスにおける外国人居留民 (Old Strangers と New Strangers) の特質を明らかにすると共に, 当時の先進大陸諸国, 特に低地諸国よりの技術移転について考察する。

2. Old Strangers

Table 1 に Old Strangers の氏名, 年齢, 職業, 出生地, 居留年, Denizen と非 Denizen の区別などをまとめて示す。

原典には Table 1 に加えて 28 名が Old Strangers とされているが具体的氏名などの記述はない²⁹⁾。28 名の内訳は, cordwainer (靴屋) と, その servants 18 名, tailor 3 名, weaver 1 名, beer brewer 2 名, wife 2 名に woman servant 1 名である。主に Flanders 出身であるが, 他地方出身もいるが詳細は不明である。Denizen はおらず, 誰も 3~4 年より長くはイギリスに居住していない。このグループを Old Strangers の “Note” グループとして区別する。

Fig. 4 に Old Strangers の滞在年数の分布を示す。図中では Table 1 のグループと “Note” グループを区別してある。少なくとも 1520 年代より 1565 年頃までは Old Strangers は少数がほぼ一定の頻度でコルチェスターに定着した。これに対し, 1565 年以降 Elizabeth 勅許適用外の, 正規外国

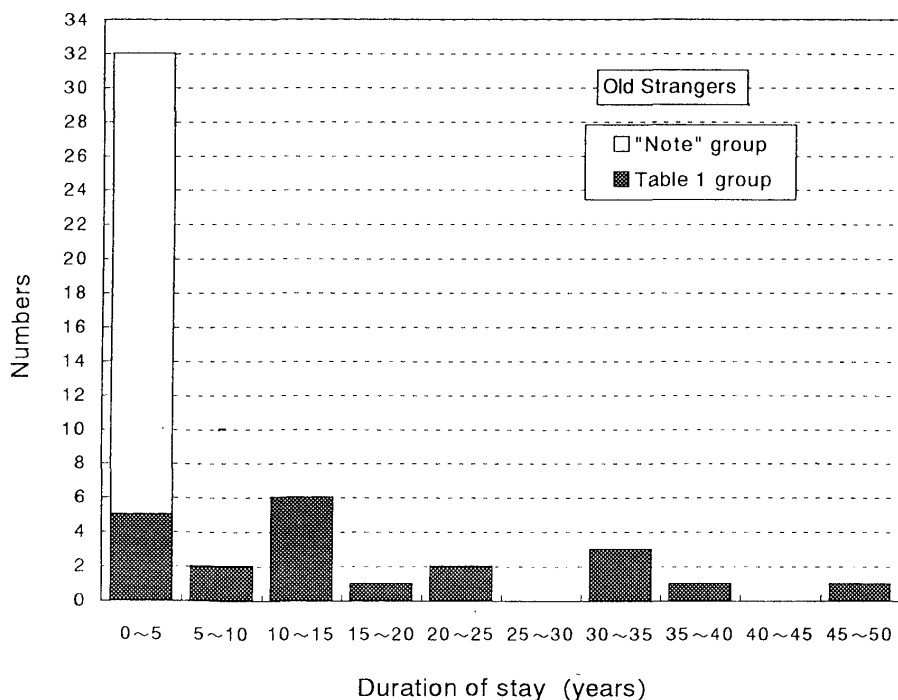


Figure. 4 Duration of stay of Old Strangers

Table 1 List of "Old Strangers" at Colchester in 1571

No.	Name	Age	Occupation	Birth place	Year of residence	Denizin or non D	Remarks
1	Wynkein Grenrice	60	Cordwainer	Gelderland	46	D	
2	John Barlooe	15		Gelderland	3	D	s. to No.1
3	Henric Woodall	20		Scotland	12	D	s. to No.1
4	Anthony Crowbroke	36	Carpenter	Flanders	24	D	
5	Thomas Grenrice	46	Tailor	Gelderland	22	ND	
6	Arnold Stone	22	Carrier	Vanluke	2	D	s. to Alice Burret (cordwainer)
7	Stephan de Vloff	18	Carrier	Flanders	4	D	s. to A.B.
8	Alice Andersonne	44	---	Scotland	--	D	wife of Thoma Andersonne (butcher)
9	John Beton	42	Physician	France	8	D	
10	Marie Beton	36	---	France	(8)	D	wife of No.9
11	Anold Gloware	ca.36		France	blank	D	s. to No.9
12	Arnold Stope	52	Glazier	Flanders	13	D	
13	() Stope	50		[Flanders]	(13)	[D]	wife of No.12
14	() Stope	ca.20		[Flanders]	(13)	[D]	Daughter of No.12
15	() Stope	ca.20		[Flanders]	(13)	[D]	Daughter of No.12
16	Gyles Archer	30	Beer brewer	Dutchland	14	ND	s. to Thomas Bussard(Colchester)
17	Powle Lowlingh	30	Beer brewer	Cleveland	10	ND	s. to T.B
18	Cutbert Browne	70	Mariner	Scotland	36	ND	
19	John van Hovell	48	Cordwainer	Cleveland	30	D	
20	Abel Buxam	18		Gelderland	ca.1/4	D	s. to No.19
21	Correlis Gelison	38	Painter	Dutchland	31	D	
22	Austyn Yullewaire	35	Mariner	France	18	ND	
23	Frauncis Block	45	Dyer	Flanders	4	ND	
24	() Block	34		(Flanders)	(4)	(ND)	wife of No.23
25	() Block	15		(Flanders)	(4)	(ND)	son of No.23
26	John Lawrence	50	Wool comber (kember)	Low Flanders	31	ND	
27	James Logier	26	Dyer	Flanders	4	ND	s. to Thomas Cletcher(Colchester)

():no discription, []: Estimated, s.: servant, D:Denizen, ND: Non Denizen

人居住者というべき Old Strangers も、New Strangers (130 名) に較べて相対的に少数 (32 名) といえども従来の Old Strangers の定住頻度よりはるかに多数到着した。これは、Fig. 1 に示すように、低地諸国の動乱の激化や Elizabeth 女王が示した“宗教的亡命者”(Religious Refugee Craftmen) の受入れ姿勢 (1565 年) と関係すると思われる。

居留年数が 5 年未満の場合、全員 (成人男子 65 名) が non-Denizen である。5 年以上になる

と、居留年数に無関係に Denizen と non-Denizen の比率はほぼ一定 (1:5/6) である。おおよそ、約半分が Denizen の資格を取得している。Denizen は特定の職種と有意には相関しない。従って、Table 1 およびその他 (Note) より、Denization の資格要件を推定することはできないが、少なくともある程度 (約 5 年) の長期居留歴は必要条件とみなしてよい。

Old Strangers は計 55 名に達する。このうち、5 家族以外は少なくとも外国人を妻としていない。Table 1 に限定すると、3 家族が見出された。それ等の家族の構成は夫 (42 才)、妻 (36 才) (居留 8 年)；夫 (52 才)、妻 (50 才)、娘 (20 才)、娘 (20 才) (居留 13 年)；夫 (45 才)、妻 (34 才)、息子 (15 才) (居留 4 年) である。滞留年数の最も短い 3 人の成人男子だけが同国人の妻と子女の家庭を持つ。その他の成人男子 (20 才以上) は 12 名いるが、大多数はイギリス婦人と結婚していたと思われる³⁰⁾。この場合、生まれた子供は当然 native (イギリス人) として法的に取り扱われる。もっとも、大陸に家族を残した単身者もいたかも知れないが、全員滞留年数が 15 年を超えているからその可能性は低い。14 世紀 (1330 年代) エドワード 3 世治下のイギリスへのフランドル繊維技術者の移住の際 (前述の (3))、家族を同伴することがむしろ積極的に奨められた³¹⁾。この場合種々のトラブル (例えば、1456 年、1457 年、1527 年におけるロンドンでの虐殺)^{32,33)} が起こった。16 世紀の Strangers に単身移住者が多いのは、native の反感を解消するための一種の同化策なのか、逆に反感を恐れてのことであろう。Old Strangers で滞留が長い者は単身移住者が多く、短い者 (4~13 年) は家族移住者が多いという事実は、イギリスの外国人に対する感情の変化が反映している可能性がある。

1567 年 8 月 21 日付の Clais van Wervekin (帽子製造業者でノーリッチ在) は大陸の Ypres (イープル) に住む妻に出した手紙³⁴⁾の中で、

・ ・ ・ ・ You would never believe how friendly the people are together, and the English are the same and quite loving to our nation. ・ ・ ・ と書いている。これより当初、彼は大いに反感を恐れていたことがわかる。同じ手紙の中で、リネンのコートを掛けるために「our long hooks を持ってくること」と、バターをつくるために「two little wooden dishes をもってくること」を依頼している。生活水準にフランドルとノーリッチとの間に当時は差があったことを十分にうかがわせる。

イギリス人に対する servants になっている者も少なくない。すなわち Table 1 の No.6 と No.7 は Alice Burell の、No.16 と No.17 は Thomas Bussard の、また No.27 は Thomas Cletcher の servants であった。外国人に対する servants になっている者もいる。すなわち、No.2 (Gilderland 出身) と No.3 (France 出身) は Gelderland 出身者の servants に、No.11 (France 出身) は France 出身者の servants に、No.20 (Cleveland 出身) は Cleveland 出身の servants になっていた。約 75% は同一地出身の組み合わせ (雇用者と非雇用者) であった。servants の数は 2 人が最高であるが、これは Elizabeth の勅許条件³⁵⁾ に合致する。servants の平均居留年数は 6.2 年 (8 名、他の 1 名は年数不明)、独立して職業に就いている男子 11 名の平均居留年数は 23.9 年であった。雇い主の方が常に servant よりも居留年数が長い。雇い主の移住と同時に伴われて来た servant の例は Table 1 には見出されなかった。従って、イギリスに来住後 servants を雇用した例がすべてである。

Table 1 の No.8 (Scotland 人、44 才) はイギリス人 Thomas Anderson の妻であった。外国人の未亡人はすぐにイギリス人の夫 (English husbands) を見つけた³⁶⁾ 例かも知れない。当時 (16 世紀) 外国人であったスコットランド人は雇い主 (外国人) の servants として移住する機会以外に女性一人でイギリスに来住できたとは考えられない。

Table 2 に Old Strangers の職業分布を示す。ここで、成年男子で、servants 以外のものを対象とした。servants でありながら職業を登録している例も多く (No.6 (Carrier, 22 才)、No.7 (Carrier,

Table 2 Occupations of "Old Strangers"

Occupation	Number			Frequency(%)
	Table 1	"Note "	Total	
Cord wainer (靴職人)	2	18	20	55.6
Tailor (服仕立て)	1	3	4	11.1
Wool comber (コーマー)	1	0	1	7 (Textiles) 2.8
Dyer (染色)	1	0	1	
Weaver (織布)	0	1	1	
Carpenter (大工)	1	1	2	
Carrier (運送)	0*	0	0*	0
Glazier (ガラス)	1	0	1	2.8
Beer brewer (ビール. 醸造)	0*	2	2+0*	5.6
Mariner (水夫)	2	0	2	5.6
Physician (内科医)	1	0	1	2.8
Painter (塗装)	1	0	1	2.8
(Total)	11	25	36	100

* 2 servants

18才), No.16 (Beer Brewer,30才), No.17 (Beer Brewer,30才), No.27 (Dyer,26才)), の場合一人(18才)を例外として20~30才台であるので, Apprentice(徒弟)ではあり得ないし, 外国人のApprenticeの雇用は禁止されている(1523年のAct). 1523年のActでは前述のように2人までの外国人Journeymanの雇用は認められている. 上記のservantsと職人(Journeyman)との区別は明らかではない.

一方, 職業が空欄のservants (No.2 (15才), No.3 (20才), No.11 (約36才), No.20 (19才), No.25 (15才))は, いずれも若年であり, 一つの例外 (No.11) はあるものの, Apprenticeの年齢範囲(14~21才)³⁷⁾内にある. すなわち, 彼等は公式には許可されていないApprenticeであった可能性が高い. 例外のNo.11はPhysician(内科医)のservantであるから本当のservant(医師助手)とみなせる.

Old Strangersは11の職種(servantが申し立てた(Beer brewer)職業を含めて)についていた. このうち4つが繊維関係である. 居留期間の長いTable 1のグループでは職種による偏りは割合少ない. 居留期間がせいぜい3~4年以下の"Note"のグループでは靴屋が圧倒的に多く, これに服仕立が次ぐ. Old Strangers全体で靴屋は55.6%, 繊維関係は19.5%である. ノーリッチでも1558-80年と1530-58年を比較すると, 洋服仕立屋と靴屋, 帽子屋, 手袋屋の数が増加した. エクゼターでは16世紀前半に41の洋服屋が, 後半には96の洋服屋が認められた. このように, 洋服仕立屋と靴屋の増加は当時の一般的傾向である. Joyce Youingsはいずれも上流階級向けの市場の拡大を示唆するとした³⁸⁾. しかし, コルチェスターにおける靴屋の急増(20名)は上級階級のマーケット向けにしては多数すぎる. 中~下層の庶民への靴の普及と関係していると考えられる.

Table 1のOld Strangersのイギリス到達時の年齢が少なくとも20才台以上であれば, 移住が当時の政府がもくろんだ通り, その職種の技術移転に有効であったと判定される. その結果, No.5 Tailor(24才) [()は到達時の年齢], No.9 Physician(39才), No.12 Glazier(39才), No.18

Table 3 Birth Places of "Old Strangers"

Birth Place	Numbers of families	Frequency(%)
Flanders	11	40.8
Gelderland	4	14.8
France	4	14.8
Scotland	3	11.1
Dutchland	2	7.4
Cleveland	2	7.4
Vanluke	1	3.7
(Total)	27	100.0

Mariner(34 才), No.23 Dyer(41 才) の 5 例が上述の条件を満足した。

Dyer と Tailor はともに繊維製造工程の後半を担当するもので、特に高度な熟練を要するものである。当時、イギリスはこれらの分野の技術の遅れは顕著であった³⁹⁾。また Glazier は家屋の窓ガラスの普及のための需要に対応するものである。すなわち、1552 年に Henry Smith がフランスの Normandy からガラス製造の熟練者をつれてくる許可と窓ガラスの独占製造権を得た。また少し遅れて (1567 年) 同じ特許を Jean Carre が得ている。後者が実効が上がったといわれる⁴⁰⁾。Table 1 の No.12 の Arnold Stope は 1558 年にイギリスに到達しているの、まさに前述の 2 つの Patent 許可の中間の時期にあたる。Table 1 の 2 人の Mariner (Scotland 出身 70 才と France 出身 35 才) はイングランド東部海岸と低地諸国およびフランスとの間の交易に従事したものである。No.18 は年令 (1571 年時, 70 才) からいって、恐らくは master で seaman merchant であったと思われる。1560 年代ではイギリスの海運はまだ後進的で、船もせいぜい 100 トン以下のもので大陸の船を真似て造られた。また、航海術も遅れていて、航海のために科学的装置を使用する知識や天体観測の知識もほとんど無かった⁴¹⁾。この点でも大陸諸国は進んでいた。イギリスは大陸の先進技術を吸収しながら、大航海時代 (16 世紀後半-17 世紀) に遅ればせながらも参加できた。例えば、1559 年には royal dockyard では約 600 名程度が常時雇用されていたが、その多くは高度な技術を保有する Aliens であった⁴¹⁾。

No.26 の Wool Comber[1552 年到着] は上述の条件から僅かにはずれる。No.26 は Low Flanders の出身である。1552 年頃はコルチェスターはまだ紡毛織物生産地であったのかかわらず、梳毛糸製造技術者であるコーマーを Apprenticeship が終わるか終わらないかの程度 (中修者) であるにしろ移住させている。コルチェスター周辺がすでに 1552 年ごろ、New draperies に関心があったことを示唆する。なお、この時期はすでに古典的梳毛の輸出は壊滅的打撃を受けていた⁴²⁾。No.14, 17, 18, 19 の 4 名は 10 才台で移民しているの、直接技術移転に寄与した程度は小さい。

Table 3 に Old Strangers の出生地分布を示す。Flanders 出身が 40.8% を占めるが、Flanders 近隣諸国 (Dutchland, France など) 出身者も多い。Cleveland と Vanluke の所在地は不明であった。

3. New Strangers

Table 4 に New Strangers 41 家族の氏名、年令、職業、出生地、居留年、家族構成などをまとめて示す。なお、全員が非 Denizen であった。

大半の“オランダ人”(Dutch)は、最初ロンドン、コルチェスター、サザンプトン(Southampton)などに到達した⁴³⁾。ただし、Joyce Youing はこの時期を 1565 年(Elizabeth 女王がノーリッチに勅許を与えた年)と想定している。1561 年にすでに同種の技術者がサンドウィッチ(Sandwich)やライ(Rye)に移住している⁴⁴⁾。彼等がエリザベス女王から特権が与えられていたかどうか、すなわち New Strangers 扱いであったかどうかは不明である。1565 年にコルチェスターに着いた(低地諸国から直接コルチェスターに coln 川を經由して船で来ることは可能である)“オランダ移民”は、同じ年に内陸部へ移動したと考えられる。というのは、Table 4 に記載されている全員は 1571 年当時、居留年数が 3~4 年に過ぎないからである。もし、1565 年に到達したとすれば、6 年の滞留となる。その上、当時は大都市で、しかも梳毛織物の一大生産中心地であり、フランドルからの技術者の勧誘に最も熱心だった⁴⁵⁾、ノーリッチの市当局は 60 家族の受け入れを申請したが、1565 年政府より許可されたのは 30 家族の“オランダ人”とワロン人(Walloon) 6 家族の計 36 家族であった事実を考慮すると、当時の中小都市にすぎない紡毛織物町のコルチェスターに 1565 年に 41 家族(計算の仕方では 40 家族)(繊維関係に限定しても、17 家族)の移住許可があたえられてとは考えにくい。結局、Table 4 の 41 家族は一番最初(1565 年)にコルチェスターに着いた移民ではなく、1567~1568 年に到着した後続グループである。イギリスにおける New Strangers は、その後低地諸国の動乱の度の増加と相まって、急速に数を増した。コルチェスターでは 1580 年代中頃には 1,300 人に達した⁴⁶⁾。ちなみに、ノーリッチは 1571 年に約 4,000 人、1582 年に 4,679 人であった^{47,48)}。

New Strangers はすべて家族単位(41 家族)である。この点 Old Strangers と対照的である。Table 4 の No.124 は単身移住者であるが、No.119 の兄弟である。これを No.119 の家族扱いにすると 40 家族となる。New Strangers の平均年令は No.1~No.15 だけで推定すると、夫 38 才、妻 30 才となるが、実体はもっと若い可能性がある。夫・妻そろっているもの 30 家族、夫のみ 1 家族、妻のみ 1 家族であった。夫不在の家庭(No.119)は夫が移住後死亡した(そして未だ再婚していない)と思われる。子供は計 30 名で、平均 0.75 人/家族となる。子供のいない家庭は 17、servant のいる家庭は 6(全 servant 数 8)で全体の 15%の家に servant がいた。

Table 5 に New Strangers の職業分布を示す。ここで、No.125 の Fuller of Bayes(縮絨)も Bayes maker に分類した。また、No.119、124 および No.128 には職業の記載がないので省いた。New Strangers には Bayes maker が 36.8%を占め、Bayes 製造に関連する Card maker や Wool comber、Weaver も各 2.6%(各 1 名)見出される。Bayes maker は Old Strangers にはない新職種であり⁴⁹⁾、これこそが New Strangers 導入の主目的であった。繊維関係者は合計 44.7%に達し、Old Strangers のそれ(19.5%)に比較して 2.3 倍高い。当時、イギリスのビールの醸造技術は革新期であり、Old Strangers に Beer Brewery(醸造)が見出されるが(2 人の servants)、New Strangers にビール原料の製造技術者としての Hopplanter(ビールに添加するホップの栽培者)が 15.9%に達する。16 世紀後半換金作物(工業用作物)がイギリスでも栽培されるようになり、大青、茜草、サフラン等の植物染料が国産化された⁵⁰⁾。Hop(桑科の多年草、蔓くさ)の栽培もこれと期を一にする。

Table 5 の Parchment と Needle は 1550~60 年代にはまだ輸入品で、国産化の必要性が主張さ

Table 4 List of New Strangers at Colchester in 1571

No.	Name	Age	Occupation	Birth place	Year of residence	Remarks
1	John van Migrode	35	Preacher	Flanders	cs.4	ND
2	Maria Migrode	ca.23		[Flanders]	(ca.4)	wife of No.1
3	()	2		[Flanders]	(cs.4)	daughter of No.1
4	Anthonie	ca.23		[Flanders]	(ca.4)	maid s. to No.1
5	Peter de Wield	26	Gardner	Flanders	3	ND
6	Francois de Wield	ca.25		Flanders	(3)	Wife of No.5
7	() Wield	3month				daughter of No.5
8	Nicolas de Hane	53	Bayes maker	Flanders	ca.4	ND
9	Katherine Yane*	ca.42		Flanders	(ca.4)	wife of No.8
10	Adreas Hane	ca.18		Flanders	(ca.4)	son of No.8
11	Nicolas Hane	ca.16		Flanders	(ca.4)	son of No.8
12	George de Hane	ca.8		Flanders	(ca.4)	son of No.8
13	Marie de Hane	ca.20		Flanders	(ca.4)	daughter of No.8
14	Marie Olivers	19		Flanders	(ca.4)	s. to No.8
15	Frauncis ver Hest	--	Bayes maker	Flanders	--	wife, 2 sons, maid s.
20	John de Lanci	--	Parchment maker	Flanders	--	wife, daughter
23	Thomas Gerrard	--	Parchment maker	Flanders	--	wife, son
26	John Oesterlinge	--	Needle maker	Flanders	--	wife
28	Derick Barton	--	Hopplanter	Flanders	--	wife, daughter
31	Francis Roundele	--	Hopplanter	Flanders	--	wife, son
34	Wouter Stowteheten	--	Hopplanter	Flanders	--	daughter, son
37	Jacob Mewes	--	Bayes maker	Flanders	--	wife, boy s.
40	Willen Cassere	--	Bayes maker	Flanders	--	wife, 5 sons
48	Joes Billet	--	Weaver	Flanders	--	daughter
50	Garrard Stowteheten	--	Bayes maker	Flanders	--	wife, wife's sister
53	Gyles Benie	--	Bayes maker	Flanders	--	wife,
55	John vander Luire	--	Merchant	Flanders	--	wife, 4 sons
61	Lever Denehout	--	Needle maker	Flanders	--	wife, father
64	Joes Baudwin	--	Surgeon	Flanders	--	wife
66	Mathias Coelyn	--	Wool comber	Brabant	--	wife, daughter
69	Lewys de Hase	--	Bayes maker	Flanders	--	wife
71	Peter Cowrade	--	Card maker	Flanders	--	wife, 2 sons
75	George van Eke	--	Turnor	Flanders	--	wife,s.(male,female)
79	Frauncis Provoest	--	Bayes maker	Flanders	--	wife
81	Mathew Bellsier	--	Bayes maker	Flanders	--	wife
83	Rase de Burker	--	Hopplanter	Flanders	--	wife,s.(male,female)
87	Peter de Baert	--	Hopplanter	Flanders	--	wife
89	Christian Messew	--	Hopplanter	Flanders	--	wife

No.	Name	Age	Occupation	Birth place	Year of residence	Remarks
91	Lawrence Deick	--	Bayes maker	Flanders	--	wife
93	Lucus Weller	--	Labourer	Germany	--	wife
95	Peter Hendrix	--	Steerman	Brabant	--	wife, son, 2 daughters
113	Kaerle Vand	--	Bayes maker	Flanders	--	wife, son, 3 daughters
119	Petronilla Hack	--	(Widow)	Flanders	--	3 sons, daughter
124	Peter Bald	--	--	Flanders	--	Brother of No.119
125	Thomas Everard	--	Fuller of Bayes	Flanders	--	wife, daughter
128	John de Troster	--	--	Flanders	--	wife, son
131	Abraham de Vress	--	Cirurgene	Brabant	--	wife

(): No discription, []:Estimated, ND: Non Denizen, s. : servant

Table 5 Occupations of "New Strangers"

Occupation	number of families	Frequency(%)
(Textiles)	(17)	(44.6)
Bayes maker(ベイ製造)	14	36.8
Card maker (紡毛)	1	2.6
Wool comber (梳毛)	1	2.6
Weaver (織布)	1	2.6
Hopplanter (ホップ栽培)	6	15.9
Parchment (紙)	2	5.3
Needle maker (針製造)	2	5.3
Turnor (ろくろ)	2	5.3
Labourer(労働者)	2	5.3
Pot maker (陶器)	1	2.6
Gardner (庭師)	1	2.6
Preacher (牧師)	1	2.6
Merchant (商人)	1	2.6
Surgeon (外科医)	1	2.6
Steerman (舵手)	1	2.6
Cirurgin (?)	1	2.6
(no description)	2	(No.128)
(Total)	40	100.0

れたものに属する (Thomas Smith, 1549)⁵¹⁾。Parchment は羊皮の代用として用いられた。当時の原料は木材パルプではなく (木材パルプは 1840 年ごろに発明された⁵²⁾)、綿や麻であった。

コルチェスターでは 1570 年頃以降 Bayes (ベイ) と Sayes (セイ) が製造された⁵³⁾。ここで、古典的梳毛織物は一種の旧式ベイで、タテ糸が梳毛糸、ヨコ糸が紡毛糸の粗織りラシャ (Blocking bayes) であり、縮絨はほどこされていない、軽い目付の織物である。16 世紀 (1565 年以降) にフランドルより導入した新規高級織物 (新織物 New draperies) のうちで Bayes が一番有名である。この新 Bayes はタテ糸が梳毛糸、ヨコ糸が紡毛糸または絹/毛混梳毛糸からなる平織物で、これを起毛し、染色した。Bayes は、フランネルに似た風合いの織物である⁵⁴⁾。ただし、Table 4 の No. 125 の Fuller of Bayes は Bayes を実際には縮絨する事もあり得ることを意味するのであろうか。一方、セイは一種の Heavier worsted (重い目付の梳毛織物) のサージで、丈夫な綾織 (Twilled fabric) であり、表面が平滑で、はっきりとした対角線の畝が織物の表面と裏面に存在する。しかし、1571 年現在、新規移民 (New Srangers) 中には Bayes maker だけしか見出せない。その後 Bayes は製品の 80% が輸出されたのに対し、Sayes は僅か 10% しか輸出されなかった⁵⁵⁾。すなわち、Bayes は輸出用であり、Sayes は国内消費であった。外国技術の招聘は輸出用繊維商品の開発をめざしたものであったので、輸出用織物の Bayes maker が歓迎された、と解釈される。Bayes maker が Sayes の製造をも、必要に応じて同時に行ったと考えられる。しかし、Bayes と Sayes は梳毛糸を少なくとも部分的に使用する点は共通しているが、その後の工程にはあまり類似点はない。いずれもイギリス紡毛織物との競合に破れたフランドル都市毛織物工業に代わって発達したフランドル農村工業製品である⁵⁶⁾。これが逆にイギリスの古典的梳毛製品を輸出市場で駆逐したわけである (Fig. 2 参照)。

Table 6 に New Srangers の出生地を示す。圧倒的に (87.8%)、Flanders 出身が多い。Brabant 出身 (9.8%) を加えると、New Srangers の 97.6% は低地諸国 (Low Coutries) 出身である。従来 New Srangers は「Weaver from the Low Coutries」⁵⁷⁾ とか、オランダ移民 (Dutch)⁵⁸⁾ と表現されて来た。しかし、実体は Table 4~6 から明らかなように、Flanders 主体の Bayes 製造業者である。当時は Weaver と Bayes maker とは明確に区分されていた。Joyce Youings⁵⁹⁾ は New Srangers を先ず religious refugee (宗教的亡命者) であると規定し、次いで、「It was quickly realized that they were highly skilled craftman.」と述べている。New Srangers の誘致の経緯は Youing の記述と全く逆である。また、単に信教上の亡命者をイギリスが無作為に受け入れたのならば、Table 5 に示すように職種が極端に偏るはずがない。信教上の亡命希望者が多発発生したのを幸いとして、ち

Table 6 Birth Places of "New Strangers"

Birth place	Number of families	Frequency(%)
Flanders	36*	87.8
Brabant	4	9.8
Germany	1	2.4
(Total)	41	100

* No. 124 in Table 4(continued) was treated as independent

ようど自国の基幹産業の不振打開策として、新しい市場に適した製品を作り得る高度技術者群を選択的に受け入れたのが真実である。

4. Old Strangers と New Strangers

Old Strangers の中にも居留 3~4 年のグループ (“Note” グループ) があり、このグループは完全に New Strangers のそれと滞留期間が重なる、だから、Old Strangers とは古くから居留する Strangers とは解釈すべきではない。Old Strangers は従来の法令の規制 (前述) に従う居留民であり、New Strangers は Elizabeth 女王の勅許による特別の条件下での移民である。後者の適用者はその後急増したことはすでに述べた。

1566~1567 年ごろの移住者は特定の職業に集中している。すなわち、

Old Strangers : 靴屋 (55.6%), 洋服仕立て (11.1%)

New Strangers : ベイ製造 (36.8%), ポップ栽培 (15.9%)

Old Strangers はどちらかという、古くからの職業についているが、その技術レベルの向上に寄与するものであるのに対し、New Strangers は今までイギリスには存在しなかった新産業 (New Industry) の創設が期待できるものである。Old Strangers と New Strangers との間には Woolcomber, Weaver, および Mariner (Steerman) など共通した職業もあるが、比較的少ない。ただし、Old Strangers の中の Beer Brewery と New Strangers の Hopplanter の間には関連がある。Beer 産業の定着と共に、原料の自給の必要が生じたのである。

ほぼ、同じ時期に移住して来ても、Old Strangers には単身移住者が圧倒的に多い。しかし、New Strangers はほとんど家族ぐるみである。いずれも Flanders 出身が主流である。古い移住者は低地諸国中心に割合広い地域からの出身であるが、1565 年以降はやはり Flanders や Brabant に集中している。

では 1560 年代以後に移住した Strangers は native に歓迎されたであろうか? Joyes Younging⁵⁹⁾ は「It was extraordinary how some towns were persuaded to forget their old prejudices against strangers in general and aliens in particular.」と述べている。しかし、事実はそのように単純ではなかった。フランドル技術者導入のイニシアティブをとったノーリッチでさえ多くの問題が起こった⁶⁰⁾。例えば、(a) 市の common council は彼等の common seal を New Strangers に使わせるのを拒否した。(b) Dutch は ‘wet, greasy goods’ を作るのを許され、walloons は ‘dry, woven goods’ を作るのを許された。Dutch と walloons は別々に管理され、各自教会、取引所 (cloth hall) を持った。(c) 移民に対する悪感情は長年続いた。市当局は当初 New Strangers は freemen (市民) にだけ販売するよう強制した。(d) 面倒な規則が移民に課された。(e) 市に 1132 名の foreigner が定住しているが、この数は元来許可された数 (30 家族?・著者) をはるかに超えているとの苦情が枢密院に寄せられてた。(f) 梳毛織物の shearer (織物表面の毛羽を刈り取る職人) は新織物になったら仕事が無くなったと苦情を申し立てた。(g) John Throckmoeton 某が計画的な一種の虐殺 (pogrom) の組織を作った (結果的には成功はしなかった)。(h) フレミングは freeman と外国人と両方と取引できることが保証されていた (“Book of Orders”) が、反対が多いので、しばしば、市長から彼等が市に居住する上での利点についての証明書を発行してもらう必要があった。

16 世紀にコルチェスターにフランドルの梳毛技術者に等移住して以来、New draperies 産業が勃興した。1629 年にはエセックス全体で 40,000~50,000 名が New draperies の製造に従事した。

コルチェスターは高い技術レベルと卓越した職人で知られた⁶¹⁾。18世紀になると、エセックスは Bayes の製造に特化し⁶²⁾、紡毛は衰えた。Serge (Sayes) はデボン (Devon) が特産地となった。1800年までにエセックスの New Draperies 産業は滅亡した⁶¹⁾。

謝 辞

本論文は著者が1997年夏イギリス Leeds 大学に滞在中に完成した。本研究の実施に当たり、多大の便宜を与えられた同大学 A.F.Johnson 教授および同大学 The Cloth Workers Library に感謝する。有意義な討論をされた同大学 J. Eric McIntyre 名誉教授に謝意を表す。

文 献

- 1) 上出健二, 繊維産業発達史概論, P.28, 日本繊維機械学会, 1993
- 2) H.B.Gibbins, The Industrial History of England, P.2, Methuen & CO., 1989
- 3) 上出健二, 前掲書, p.36 および図 3.7
- 4) H.B.Gibbins, 前掲書, P.137
- 5) 上出健二, 前掲書, P.72, P.75-76
- 6) E.Lipson, The Economic History of England, Vol.1, P.432, Adam and Charles Black, 1949
- 7) 上出健二, 前掲書, P.82-83, P.112-113, 図 3.30
- 8) E.Lipson, A. History of Woollen and Worsted Industry, P.23, p.25.
- 9) 上出健二, 前掲書, P.116
- 10) 小池滋, ロンドン (世界の都市物語 6), P.254-255, 文芸春秋社, 1992
- 11) 市川承八郎, スピトルフィールズ (ロンドン) 絹織物工業の展開とその構造, 研究, 第 36 号, P.87-115, 神戸大学文学会, 1965
- 12) 上出健二, 前掲書, P.29
- 13) Peter Salway, John Blair, The Oxford History of Britain, Vol.1, Roman and Anglo-Saxon Britain, P.25, Oxford University Press, 1992
- 14) 上出健二, 前掲書, P.52-53
- 15) E.Lipson, The Economic History of England, Vol.1, P.448
- 16) 上出健二, 前掲書, P.52, P.110
- 17) 上出健二, 前掲書, P.102-103, 表 3.9
- 18) Peter J. Brown, The Wool Trade and Stuart England, P.43, McMillan & CO., 1962
- 19) 上出健二, 前掲書, P.111, P.115, 図 3.49
- 20) E.Lipson, The Economic History of England, Vol.1, P.351
- 21) Joyce Youings, Sixteenth-Century England, P.70, Penguin Books, 1991
- 22) Joyce Youings, 前掲書, P.280
- 23) Joyce Youings, 前掲書, P.72
- 24) 上出健二, 前掲書, P.103
- 25) 上出健二, 前掲書, P.112
- 26) E.Lipson, The Economic History of England, Vol.1, P.351
- 27) Joyce Youings, 前掲書, P.127
- 28) R.H.Tawney, Eileen Power (ed.), Tudor Economic Documents, 10. List of Strangers at Colchester, 1571, P.310-314, Longmans, Green & CO., 1924
- 29) R.H.Tawney, Eileen Power (ed.), 前掲書, P.312
- 30) Joyce Youings, 前掲書, P.128

- 31) 上出健二, 前掲書, P.75-77 参照
- 32) 上出健二, 前掲書, P.76
- 33) E.Lipson, A.History of Woollen and Worsted Industry, P.533
- 34) R.H.Tawney, Eileen Power (ed.), 前掲書, 5. Extracts from Letter Written by Refugee Strangers at Norwich to their Friends and Relation at Ypres, 1567, P.299
- 35) Grace Lovat Fraser, Textile by Britain, P.24, George Allen & Unwin Ltd.
- 36) Joyce Youings, 前掲書, P.128
- 37) 上出健二, 前掲書, P.50
- 38) Joyce Youings, 前掲書, P.290
- 39) 上出健二, 前掲書, P.105
- 40) Joyce Youings, 前掲書, P.241
- 41) Joyce Youings, 前掲書, P.34-36
- 42) 上出健二, 前掲書, P.113, 図 3.47
- 43) Joyce Youings, 前掲書, P.242
- 44) 上出健二, 前掲書, P.83, 図 3.30
- 45) R.H.Tawney, Eileen Power (ed.), 前掲書, 4. Introduction of Strangers from the Low Countries to Norwich, 1564 P.298-299
- 46) Joyce Youings, 前掲書, P.243
- 47) 上出健二, 前掲書, P.112
- 48) E.Lipson, A.History of Woollen and Worsted Industry, P.22
- 49) 例えば, R.J.Mitchell, M.D.R.Leys, A History of the English People, P.260. Longmans, 1950
- 50) 上出健二, 前掲書, P.95
- 51) Joyce Youings, 前掲書, P.239-240
- 52) 上出健二, 前掲書, P.216
- 53) 上出健二, 前掲書, P.113
- 54) 上出健二, 前掲書, P.111
- 55) James Bishoff, Woollen and Worsted Manufactures, Vol. P.189, Elder and Co.,
- 56) 上出健二, 前掲書, P.81, P.111
- 57) Grace Lovat Fraser, 前掲書, P.24
- 58) 上出健二, 前掲書, P.113
- 59) Joyce Youings, 前掲書, P.242
- 60) Grace Lovat Fraser, 前掲書, P.24-25
- 61) M.Berg, The Age of Manufactures, 1700-1820, P.104, Routldge, 1994
- 62) T.A.Shape, Early Modern England, A Social History, 1550-1760, P.142, Edward Arnord, 1987